【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

１　調査結果の分析（〇：成果　△：課題）

小学校：国語

〇すべての観点・領域において県・全国の正答率を上回った。（読むこと）の記述問題、漢字の書き取り問題以外は無解答率が０％であり、児童の問題に取り組もうとする意欲がうかがえた。

〇（我が国の言語文化に関する事項）の書写に関する問題は、正答率１００％とよく理解できていた。

△大問１一（言葉の特徴や使い方に関する事項）の、「同音異義語」についての理解不足、大問３三（〃）の漢字の書き「録画」の定着不足が見られ、いずれも県・全国正答率より低かった。

△大問１三（A話すこと・聞くこと）の必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題で、県正答率・全国正答率より低かった。前後のやり取りを踏まえ、聞きたいこと（質問）の中心を捉えられていない。（読むこと）との関連指導が必要と考える。

△大問３二（B書くこと）の文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題で、複数ある条件の中でよさを書くことができていない。文章のどこに着目すればよいか、問題文を理解できているかなど、再度指導をし、一緒に理解を深めていく必要がある。

２　具体的な改善方策

小学校：国語

・かにっこタイム（火朝）や週末の宿題において言語事項に関する問題に取り組ませる。（ことわざ・語彙を増やす問題、熟語、漢字など）

・漢字の定着について毎日の宿題でスモールステップの取り組みを継続する。（読み・書き順・書き）

・話し合い活動の継続指導を通して、相手の意図を理解したりそれをつないだりして話し合いをまとめていく経験をさせる。

・日頃の学習時間に、自分の考えやその理由を書くことを習慣づけ、論理的な思考を深めるようにする。

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

１　調査結果の分析（〇：成果　△：課題）

小学校：算数

〇すべての観点・領域において県・全国の正答率を上回った。すべての問題において無解答率が０％であり、児童の問題に取り組もうとする意欲がうかがえた。

〇大問１（Ａ数と計算）に関する問題は、おおむねよく理解できていた。

△大問２（Ｃ変化と関係）の、比例の関係を用いて飲み物の量を求める問題の正答率が全国正答率より低かった。自分の言葉で求め方を記述しているが、問題に合うように文章を構成できていない解答が見られた。

△大問３（Ｄデータの活用）の、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題の正答率が全国正答率より低かった。

△大問４（Ｂ図形）の、長方形の意味や性質、構成の仕方について考える問題の正答率が全国正答率より低かった。プログラミング学習などにより体験はしているが、実際にそのプログラムがどのように成り立っているかを言葉や文章で表したり理解したりすることに課題があった。

２　具体的な改善方策

小学校：算数

・割合・比例に関する問題に苦手意識を持っている児童が多いので、かにっこタイム（木朝）で下学年の復習をじっくりとおこなう。

・学級の話し合いやアンケートなどから自分たちの生活に身近なトピックで問題に取り組ませていく。（１学期実施例：給食の準備タイムをもとにヒストグラムをつくる）

・図形に関する問題に苦手意識を持っている児童が多いので、かにっこタイム（木朝）で下学年の復習をじっくりとおこなう。（面積・図形の性質なども含む）

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

1　調査結果の分析（〇：成果　△：課題）

小学校：理科

〇全体・観点別・領域別ともに全国平均正答率及び県正答率を上回っていた。

〇（生命）の昆虫に関する問題の正答率が高かった。

△大問 2（4）（粒子）の凍った水溶液について試してみたいことを基に見いだされた問題を文で書くという問題で、必要な言葉を使って文で表現することに課題が見られた。全国正答率より低かった。

△大問 3（1）（エネルギー）の光の性質を基に、指定した的に反射させた日光を当てた人を選ぶ問題で、光の進み方の性質は知っていても、それを問題場面にあてはめて考えることに課題が見られた。

△大問 3（4）（エネルギー）の問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果をもとに書くという問題で、結果に書いている言葉や数値を使って説明することに課題が見られた。

2　具体的な改善方策

小学校：理科

・9 月に「水溶液」「光」の単元は週末の宿題で復習し、授業のはじめに間違えやすいところを確認して定着を図る。

・授業で結果を予想させたり、比較させたり、関連付けて考えさせたりして、知識を活用して考える場を作るようにする。

・授業の中で、問題を作る場面やわけを説明する場面で、必要な言葉を使って表現する経験をさせる。

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

１　調査結果の分析

中学校：国語

〇大問４「行書の特徴を理解しているか」「漢字の行書の読みやすい書き方について理解しているかどうか」「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうか」（「我が国の言語文化に関する事項」）については全国や県の正答率をやや上回った。これは「毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学年の実態に即して設定し、作品鑑賞まで行う」という学習活動の成果であると考えられる。

△大問２「意見文を書く」（「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」）という記述式の問題については無回答率が高く、正答率が全国や県を大きく下回った。これは「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうか」という趣旨の問題である。自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、自分の意見の根拠に必要な情報を使う力に課題があると考えられる。

２　具体的な改善方策

中学校：国語

〇書くこと

・「情報を読み取る力」を育成するために、文章とグラフ・図を関連付けて読む活動を増やす。

・相手に効果的に伝えるために、根拠を明確にすることを意識させ書く指導をしていく。

・分かりやすい文章にするために「読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす」「書き手の目的と意図を理解した上で助言する」という相互評価の活動の場を設定する。

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

１　調査結果の分析

中学校：数学

〇数と式の「連立方程式の計算」、図形の「反例の意味」において、全国・大分県よりも正答率を大きく上回ることができた。
〇数と式の「素因数分解」では全国よりも正答率は上回ったが、大分県よりは若干低かった。ただ、無回答の割合も高かったので、解説をする際には生徒に確認をしながら説明をしないといけない。
△数と式の「文字を使っての説明」、データの活用の「ヒストグラムの特徴を読み取る」、「箱ひげ図の特徴を読み取る」については正答率を大きく下回った。どれも説明する問題なので、説明の仕方を確実に押さえないといけない。
△図形の「２つの角の和が３０°になる理由を説明する」では、正答率が 0.0 であり、無回答の割合が極端に高かった。
生徒個人に着目してみると、平均正答率を下回った生徒が１０人中７人という結果になった。各領域で点数を上げることと目標値を下回った生徒への底上げが必要である。

２　具体的な改善方策

中学校：数学

〇数と式では理由の説明をする活動を、図形では作図の性質を理解した上での証明や説明の問題を、資料の活用ではことばやグラフや図の意味をしっかり理解させた上でそれぞれの値を求める問題を長期休業中や年度末に復習する場を設定する。
〇関数では、二次関数の学習をする際に、一次関数や比例反比例を復習する場を盛り込んでいく。
〇目標値を下回った生徒への指導として、日々の授業の始まりに、その単元の復習となる基礎・基本的な問題に取り組み定着を図る。

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

1　調査結果の分析

中学校：理科

△県正答率と比較して、全体としては 9.0 下回った。特に、観点別に見たときに、思考・判断・表現は大幅に下回っている。今回の問題数２１問に対して、思考・判断・表現に関する問題数は１４問であった。
△地球領域の問題については、「地層」「天気」の内容が出題された。地層については、概ね良好であったが、天気の正答率は県正答率を大幅に下回っている。
△生命領域の問題については、実験の結果を分析し考察をする、いわゆる思考・判断・表現を問う問題が出題された。生命領域を得意とする生徒が多いが、今回の問題のように結果を分析したり比較したことを表現したりすることは苦手である。
△粒子領域の問題については、「化学変化」「状態変化」の内容が出題された。化学変化については、概ね良好であったが、状態変化の正答率は県正答率を大幅に下回っている。
〇エネルギー領域の問題については、県・全国正答率どちらも上回っている。
〇短答式の問題については、県正答率 25.4 に対して 40.0 と大幅に上回っている。

2　具体的な改善方策

中学校：理科

・苦手とする「天気」「状態変化」
→基礎的な復習問題を小テストとして実施し、くり返し復習して定着を図る。
・「思考・判断・表現」
→授業内で、予想や考察時に根拠もふまえて自分の考えを表現する場面や既習事項を活用して思考する場面を設定する。また、これから入試問題などの演習を多く取り入れ、同様な思考力を問う問題にも多く触れられるようにする。

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

１　調査結果の概要

児童・生徒質問紙

・学習に対する興味・関心
　〇国語、算数（数学）、理科それぞれの学習に対する意欲は高く、本学力調査にも意欲的に取り組んでいることがうかがえる。
　△昨年度の課題であった「新聞を読んでいますか」の問いに対しては今年度も肯定的評価が低い。
・生活習慣・学習習慣
　〇早寝、早寝、朝食などの基本的生活習慣は、家庭での協力を得ながら定着できている。
　〇学習時間、話し合う活動で、自分の考えを深めたり広めたりできている児童が多い。
　△家庭でのゲームの時間について、家の人と約束を守れていない児童生徒もいる。
　　家庭でのゲームＳＮＳ等の活用が進んでいる一方、学校での学習時間のＩＣＴ機器の活用が進んでいない。
・規範意　識・自己有用感
　〇自己の生活の向上のために必要なきまりを守ろうとする意識は高い。
　△「自分にはよいところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」といった自己有用感について、否定的評価をしている児童生徒もいる。

２　調査結果をふまえて

・校内に子ども新聞などを配置するなどの文字に触れる環境づくり。
・全校「かにっこがんばりウィーク」における生活習慣の見直しをしていく
・ネットモラル講演会の開催、保護者への啓発、学習時間のＩＣＴの活用。
・中学、高校進学に向けたキャリア教育の充実を図る。
・授業の中で、意見交換や話し合い活動を取り入れていきながら、思考・判断・表現力の向上を図っていく。
・家庭での情報機器類の使用について、「親子の約束」をきちんと作り、守らせるように保護者にお願いする。
・自分の進路実現に向け、１日２時間（土日は４時間）以上の学習をするように、１日の計画を立てさせ、実行するように声かけをする。できない生徒については、放課後学校で学習させるようにする。
・希望する生徒に対して個別の指導を行い、個人の進路実現に向けた学習をさせる。

【　　姫　島　村　　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1　調査結果の概要

学校質問紙

・教科指導

〇理科の指導方法について、実生活における事象との関連や観察・実験をする授業など、児童の興味・関心にそった指導ができている。

△国語、算数においては、児童の身近な話題や実生活における事象などと指導の関連が図れておらず、指導法の改善が必要であることがうかがえる。

・授業改善・生徒指導

〇昨年度まで校内研究で進めてきた「話し合い活動」についての授業改善を進めてきたところ、児童の意見を引き出す、つなぐなどのファシリテーター的役割を果たす授業が増えてきた。

〇生徒指導の機能を生かした授業づくりに努めた結果、児童が落ち着いて学習に取り組んでいる。

・学校経営

〇地域の人材や SSW・SC など必要な人材を効果的に活用し、児童の教育活動をおこなっている。

△家庭や地域とのさらなる連携のため、コミュニティスクールの導入に向けて具体的に計画をしていく必要がある。

2　調査結果をふまえて

■教職員の授業改善・校内研究の推進

・教科横断的な視点、地域人材や地域素材の活用を意識した教科横断的なカリキュラムの編成と授業改善

・ＩＣＴ機器を活用した授業の深化

■CS（コミュニティスクール）導入に向けて

・社会（地域・保護者・保育園・幼稚園・中学校）に開かれた教育課程の実現